

8月大熊発表

石川万丈・小寺あい・前田進・宮田陸

発表の内容

○大熊町内視察の内容紹介

○気づき、意見の紹介

- ・街のこと、交流で知ったこと
- ・復興について
- ・中間貯蔵施設と処理土壌について知って
- ・1Fを視察して
- ・放射線の印象
- ・伝えたい人、伝える方法
- ・伝える内容
- ・「伝える」ことの課題
- ・東電の伝えたいこと
- ・行政の動き方

大熊町内視察

大熊町役場 ➡ クマSUNテラス
徒歩ルート🐾🐾

- ・渡部家住宅
- ・ネクサスファームおおくま
- ・大熊中央産業拠点
など視察



渡部家住宅



国の登録有形文化財
1番古い主屋は江戸時代建築
震災後そのままの家や車

ネクサスファームおおくま(🍓)



冬～春にかけてイチゴの直売
ポットスライド型の栽培

大熊中央産業拠点



野菜の室内栽培、レストラン
整備された道路
建設中の建物⇒これからまだまだ発展しそう

その他

- ・放置された自動販売機は見当たらない。
- ・放置されている果樹園、家屋
- ・新しい公営住宅が多い。
公営ではなさそうな新しい家も少ないけれどある。

歩いて実際に街を見て回ると
復興の様子を感じ取りやすい！

街のこと 交流で知った こと

○新しい施設が沢山できていて復興が大きく進んでいると思った。

➡・定住する人が増えたとは言い難い。
テナントの人はいわきや相馬住みが多い。

日中の人口は増えた！

- ・単身だと住みたい人はいるかもしれない。
公営住宅は所得制限あったりして実は住む場所少ない...
- ・補助金が出なくなった時、廃炉作業が終わった時などに人を定住させ続けられるのか。

➡目に見えない課題に気づいた

○震災後にいちごやキウイなどの**新しい産業**ができた

➡農地がなくなった人の雇用に繋がっているのでは？

○駅前の住宅が思ったより少なく、さらなる活性化にはまだ時間がかかりそう。

復興について

○高齢化が進む

「思い入れがある街」以外の復興の目的とは？

➡「震災を伝える街」&「新しいことができる街」

○戻ってくるきっかけがないと大熊町に戻らない？

○インフラ(道路など)の整備が建物や果樹園の再生よりも優先されている感じがする。

➡行政はお金を使えるが個人はお金が使えないから行政が整えられる**インフラの再生**が早いのでは？

➡元の住民が戻ってこないのにお金をかけるのは正しいのか？

➡元の住民だけではなくて、新しい人も呼ぶ目的も。

整備→**人を集める**という順番は間違っていない。

➡放置されている個人所有の土地は今後どうなっていくのか？

復興について

○完全に新しい街の方がいいのか

➡元々いた人に戻ってもらう難しさ(別の場所に定住)

○いろいろなものが新しくなっても、

伝統文化や祭りを通じて町の「アイデンティティ」
は取り戻せるのではないか。

➡双葉の祭りのインタビューで

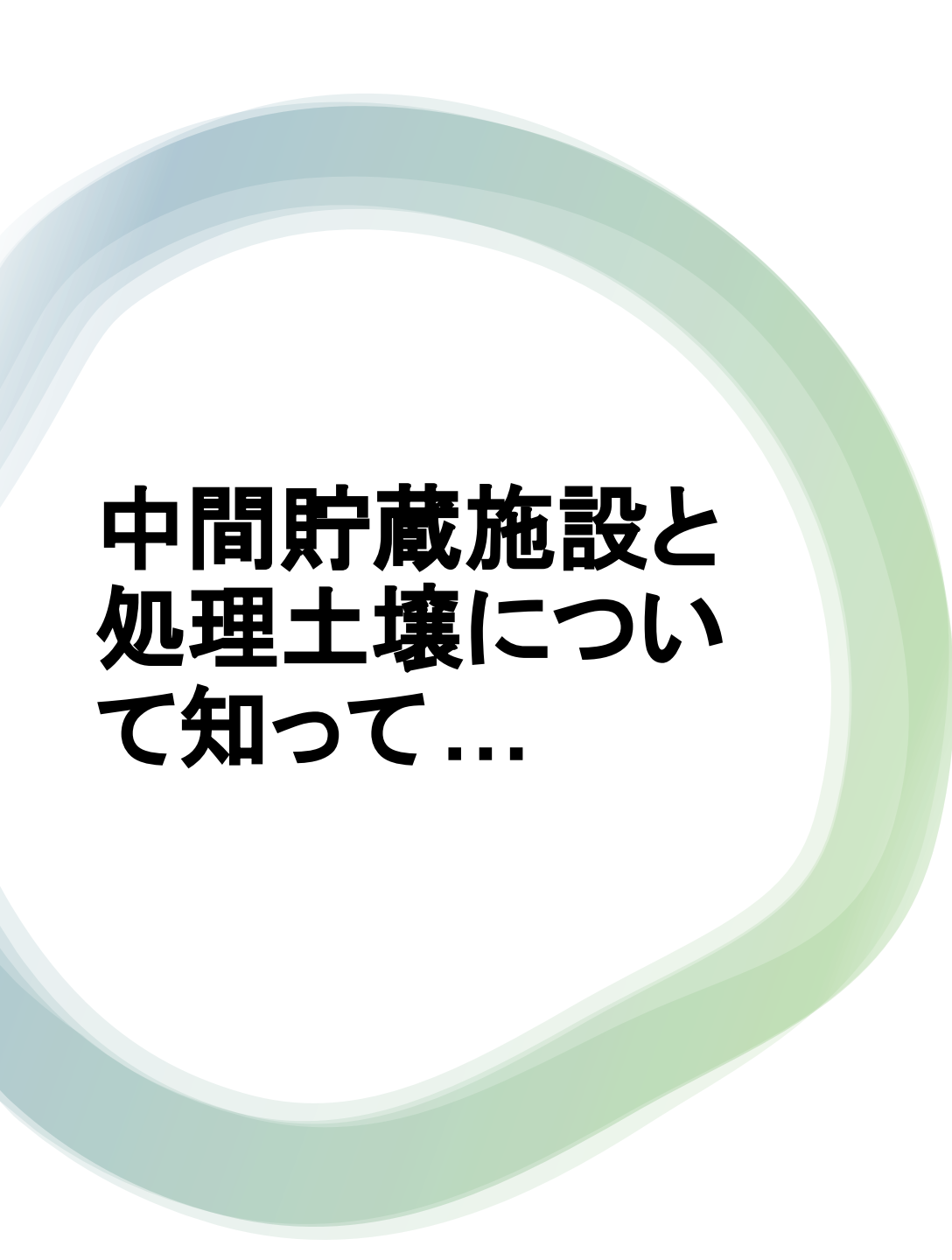
「戻ってきたという感じ」というコメント。

新しいことを主流にしても、人々が集うことで元々
のアイデンティティを取り戻せているのでは？

➡新しく来た人、戻ってきた人など様々だが、震災で
失われていた「**集まる**」という活動自体が戻った。

それが復興の表れ

➡「完全に新しい街」には風景が変わってもならない？



中間貯蔵施設と 処理土壌について 知って...

- ・管理されている土壌のうち4分の3は、再利用可能な線量

But... 受け入れはなかなか進まない...

⇒2045年までになんとかできるのか？

- ・処理土を受け入れることのメリット(金銭等)をより浸透

・コロナにおけるワクチンのように
強制力を持たせたりして当たり前
できたら

ワクチン→強制力があつたが、批判はあり
つつも最終的にはうまくいっている？

中間貯蔵施設と 処理土壌について 知って...

- ・単純に受け入れ先だけではなく、埋めたものを掘り返す必要性や、再利用の方法の現実性などに懸念

➡コストや手間を考慮して最終処理方法は見直しが必要？

- ・再利用土壌を使って育てられた植物からの**検出線量は10bq/kg未満**

(日本基準100bq/kg 世界1200bq/kg)

➡処理土壌は何ら問題ないが、怖がる人はいなくなる...

積極的な情報発信 で減らすしかない

1Fを視察して

...

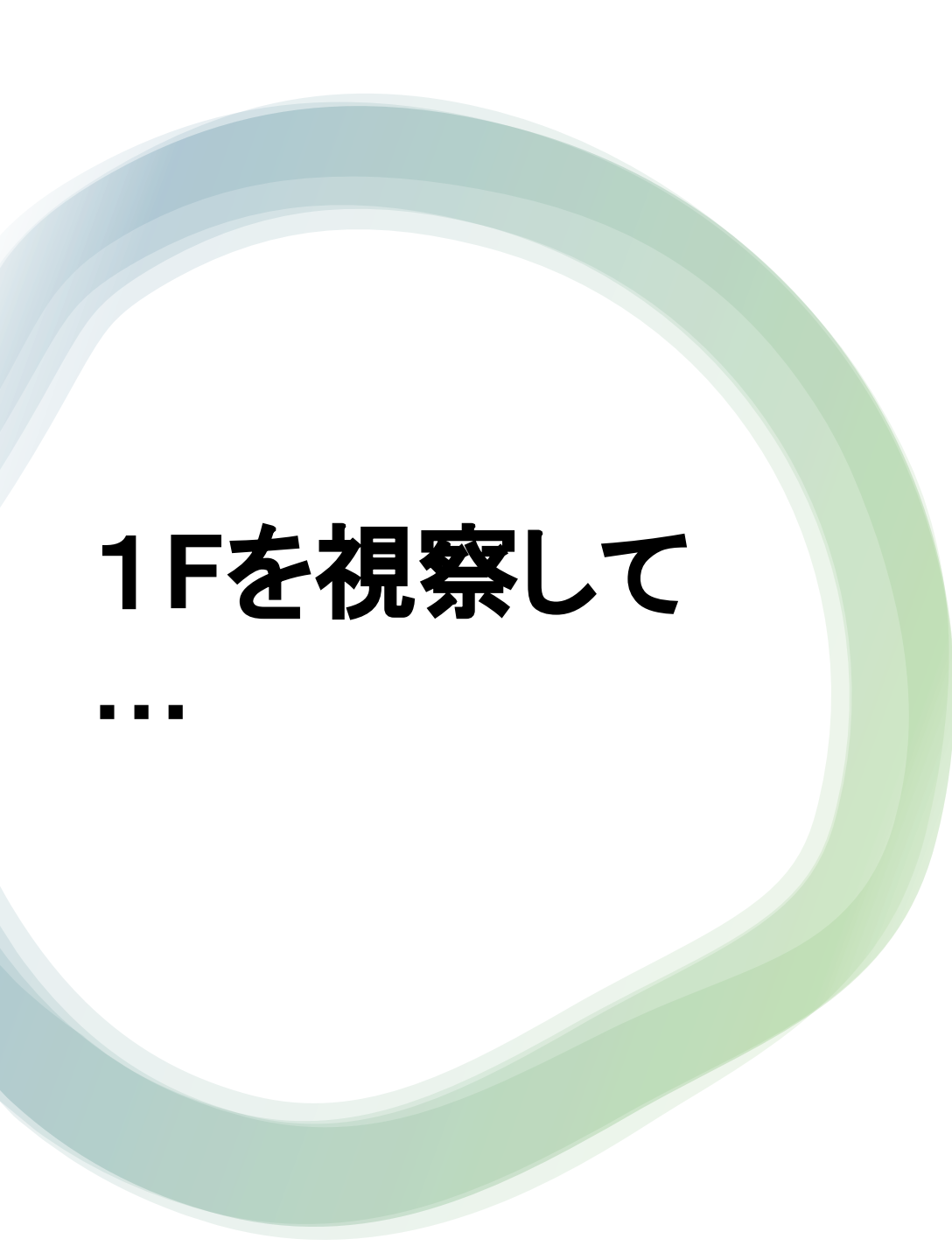
グリーンゾーンが思ったより広がった(全体の96%らしい)

一方、14年たつ今でも発電機内の情報がとりきれていない

→ドローン技術や様々な測定機器の発達とともにわかるようになってきた

そうした**最新技術等で常に新情報や廃炉のための試みや工夫**

・起こしてはならない事故だった分、様々な測定器の作成など、そこから**得られるデータや技術向上を最大化**したい



1Fを視察して ...

- ・普通の原子力発電でも使用済み燃料の処理は難しい

- ・こうした事故があった以上、
日本で原子力発電をするのはイメージ的にも難しい？

→機能的には再稼働可能でも廃炉にするしかない

原子力と共存する未来が見えない
日本で原子力はもう厳しい？

1Fを視察して ...

- ・処理水や廃炉について怖がる人多い
曖昧なまま情報発信→良くない影響



東電などによる正しいより積極的な情報発信が必要

But...

知るようになるきっかけがない、知ろうとしない人もいる？

- ・処理水がいくら安全でも、「処理水」レッテルをはがすことは難しく、自他国の偏見の払拭も困難？

放射線の印象

- ・放射性廃棄物の画期的な**処理方法**が見つかってほしい。
- ・天候によっては**東京も放射線の影響を受けていた可能性**があることに驚愕。恐怖心も沸いた。
- ・日本人には**原爆被害**の過去から放射線への恐怖が根底にあるのかもしれない。

➡これらの

（ 処理方法がない

東京も被害を受けていたかもしれない

原爆のイメージ

などが人々の恐怖心や風評被害の元 に繋がっているのでは？



伝えたい人・ 伝える方法

放射線に関する知識がない人
データを示しても何にもならない人



数値を見せるのは意味があるのか？

少なくとも「知る」機会にはなる

(感じ方はその人次第)

- どうやって見せる？
- 「知る」の段階に行くには？



伝える内容

数字やデータでの安全性のPRの一边倒
「怖い」と思う人は怖い印象のまま
「基準」に疑念を持つ人は疑念を持つま
ま

→現状が変わらないのでは？

↓

わかりやすい基準・比較で示せば怖さは
なくなる？

「伝える」 ことの課題

- 双葉・大熊や福島県についてしまった「放射性物質」のレッテルをどうやってとる？
→「福島県産」と聞いても大丈夫な人は増えているが、
「福島県」と言えば、
「放射線・放射性物質」のような印象
- 実際に経験していない人が増えていく中でどう伝える？
→今の中学生は東日本大震災発災時に生まれていない！



東電の 伝えたいこと

謝罪から始まる廃炉資料館の動画



データの改竄・水質・土壌・廃棄物処理に対する杜撰なイメージ

→町民自身も東電・原発について
知らないことが多いのでは？



さらなる情報開示？

行政の動き方

- 国: 政治的な部分が大きな足枷
- 法律の基準や方法は本当に有効なのか
→ 原発事故のモデルタウンとして、
東電や中貯の情報の伝え方を、
町・県は対応・復興の仕方を考える機会を
与える第一人者となるべき
- 帰還困難区域内外の住民たちの間に
大きな壁(隔たりや歪み)が
生じているのは悲しい

ご清聴ありがとうございました